

# 2025年に出たおすすめ本

福井県では、子どもの読書活動推進の一環として、乳幼児から高校生までの子どもの成長段階に応じた推奨図書を選定し、小冊子やリストの形で公開しています。

その番外編として、2025年に出版された本の中から、小学生のみなさんへおすすめしたい本を紹介します。

## 小学3・4年生～



### それからぼくは ひとりで歩く

アリシア・モリーナ/作  
星野由美/訳  
犬吠徒歩/絵  
ほるぶ出版

ハイメは11歳の目の見えない男の子。特別支援学校から町の小学校に転入したばかりです。ある日、気になっている女の子を家まで送ることになり、いつもは乗らないバスに乗ることに。目が見えても知らない所に行くのは大冒険です。「見えない」ハイメの大冒険の物語。



### 地理学者 シリアへ行く

小口高/文  
山本美希/絵  
アリス館

シリアの洞窟でネアンデルタール人が暮らしていた痕跡が見つかりました。地理学者の「ぼく」も、当時の自然環境を調べるため調査に加わることに。見開きいっぱい作業の様子や風景が描かれ、歴史だけでなく人々の暮らしも紹介されています。



### ぼくの算数絵日記 (たくさんのふしぎ傑作集)

瀬山士郎/文  
タイガー立石/絵  
福音館書店

4年3組のしろうくんが算数の勉強をした日の絵日記。たし算とかけ算をならった後にはそれを友達のタイガー君とゲームにして遊びます。そしておかしな夢を見ます。0は何をかけても0になることやマイナスの数の説明もわかりやすく、算数が好きになります。



### レーナとヒキガエルの紳士

ミリアム・ダーマン/文  
ニコラ・ディガール/文  
ジュリア・サルダ/絵  
河野万里子/訳  
徳間書店

西のはての奇妙な森へ、町の人たちを舟で運ぶ少女レーナ。思いを寄せる青年オーレンが何日も森から帰らず心配していると、森の主と名乗る巨大なヒキガエルに森の奥へと導かれます。ヒキガエルがけっして入ってはいけないという部屋の扉をあけたレーナがそこで見たものとは…。

◆図書館・学校等の方へ ここで掲載している紹介文とキャッチコピーは、図書館や学校などでの子どもの読書活動に、自由に使用することができます。POPとして本の展示に使用するなど、読書活動にご活用ください。

◆小冊子とあわせてご活用ください 「子どもの成長段階に応じた推奨図書」小冊子(幼児編、小学生編、中学生・高校生編)は、各公立図書館で配布、また、生涯学習・文化財課のホームページにPDF形式で掲載しています。

◆小冊子・推奨図書リスト掲載ホームページはこちら

福井県教育庁生涯学習・文化財課ホームページ「子どもの成長段階に応じた推奨図書(中学生・高校生対象)」  
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/syoubun/dokusyo/suishoutosho-tyuukousei.html>

◆問い合わせ先 福井県生涯学習・文化財課 0776-20-0559 syoubun@pref.fukui.lg.jp

